

## 評価対象業務従事者経歴書

案件名											写 真
担当業務											
氏名	取得学位・資格 (登録番号・取得年月)  ※ 技術士等は部門も明記して下さい。										
(ローマ字)											
生年月日											
本籍	都道府県										
外国語	取得資格		自己申告				著書・研究論文等		健康診断結果		
	資格名	外国語名	読む	書く	話す	聞く	研究成果				
	年 月取得							年 月 日受診			
学歴			校名		学部・学科・専攻等						
	高等学校							年 月卒業・中退			
	短大等							年 月卒業・中退			
	大学							年 月卒業・中退			
	大学院							年 月卒業・中退			
現職	採用年月		所属先			部・課、職位		職務内容			
	雇用保険	確認(受理)	通知年月日【 】			被保険者番号【 】					
			事業所番号【 】			事業所名略称【 】					
	健康保険	被保険者記号	番号【 — 】			交付日【 年 月 日】					
		保険者番号【 】			保険者名称【 】						
		事業所名称【 】									
職歴	期間(年月～年月)		所属先			部・課、職位		職務内容			
関連する業務経験 (調査、BOP事業等本調査に関連するもの。国内外を問わないが、海外経験を高く評価する)	件名		対象国		発注者	担当業務	従事期間 (年月から年月)	現地作業参加期間 (年月から年月)			
その他の海外渡航歴	渡航先	期間(年月から何カ月)			目的(留学先等)			内 容			

## 1. 語学能力の基準

基準については以下の基準に従い自己申告してください。

(ランク)

S- 正確かつ流暢に高度な会話ができる。また、会議でのディスカッション及び技術レポートの作成をはじめ自己の専門分野はもちろんとして、他の分野についても正確な表現と理解が可能である。

A- 通常の会話と自己の専門分野の表現と理解はもちろんとして、技術レポートの作成・解読も可能である。ただし、会議でのヒアリングにはやや難がある。

B- 通常の会話と自己の専門分野の表現と理解は、十分とは言えないが可能である。また、技術レポートの作成・解読は、不十分ながら可能である。

C- 実用の域ではないが、通常の会話や技術レポートの作成・解読は、辞書を用いて辛うじて可能である。

## 2. 語学能力・資格の認定等について

英語については、次に掲げるいずれかの機関又はこれらに準ずる機関でJICA が特に認めるものが実施している能力・資格の認定試験の結果を記載してください。なお、語学資格の写については、企画書概略版の段階では提出は不要ですが、採択後に提出する詳細企画書では写の提出が必要です。そのため、資格については資格の所持が証明できるもののみ記載してください。

- (1) JICA 専門家語学能力検定
- (2) (財)日本英語検定協会(実用英語技能検定:略称英検)
- (3) (財)日本英語検定協会(ビジネス英検:略称BEST)
- (4) (財)国際ビジネスコミュニケーション協会TOEIC 運営委員会(TOEIC)
- (5) 国際教育交換協議会東京事務所、TOEFL(TOEFL)
- (6) (財)日本国際連合協会(国連英検)

英語以外の外国語については、特に指定はないので、現に保有の認定証等に基づき記載してください。